

2016年4月開催 ASAF 会議報告

ASBJ 委員 かわにし やすのぶ
川西 安喜

はじめに

2016年4月7日及び8日にロンドンで第12回会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF)会議が開催され、企業会計基準委員会(ASBJ)からは、小野委員長ほかが出席した。議題は次のとおりであった。

- (1) 2015年のアジェンダ・コンサルテーションへのフィードバック
- (2) 概念フレームワーク
- (3) 料金規制対象活動
- (4) インフレの会計処理
- (5) 共通支配下の企業結合
- (6) IFRS第9号と新保険契約基準の発効日の相違
- (7) 株式に基づく報酬
- (8) 国際会計基準審議会(IASB)によるプロジェクトの近況報告とASAFの議題

本稿では(1)と(2)について、ASBJの発言を中心に議論の概要を紹介する。

2015年のアジェンダ・コンサルテーションへのフィードバック

① 優先順位の高いプロジェクト

ASBJから、関係者からのフィードバック同様、概念フレームワークや開示に関する取組みは優先順位の高いプロジェクトであるが、のれんの会計処理に関するプロジェクトも優先順位が高いプロジェクトであると発言した。

② 優先順位を決める上で考慮する要因

ASBJから、財務情報の比較可能性を促進し、単一の高品質な会計基準を設定するという長期的な目標を達成するためにも、米国会計基準及び他の各国基準とのコンバージェンスは、プロジェクトの優先順位を決定する際に考慮すべき要因の1つであると発言した。

これに対し、IASBのスタッフから、基準開発にあたっては、米国会計基準の動向は常に念頭に置いているとの発言があった。

③ 適用後レビューの対象

ASBJから、適用後レビューについては、実務で整合的に適用されていない事項や、IFRS解釈指針委員会に持ち込まれた論点だけに焦点を当ててではなく、基準開発時に論争があった事項も検討の対象とすべきであると発言し

た。

これに対し、ASAF メンバーから、特段の理由がなければ、根本的な論点を再度議論することを前提にするのではなく、適用上の論点に焦点を当てるべきであるとの発言があった。

④ 狭い範囲の修正

ASAF メンバーから、狭い範囲の修正が多すぎ、それは基礎となる基準に問題があることを示唆している可能性があるとの発言があった。また、狭い範囲の修正については、テーマごとにまとめて修正する方が、関係者からのフィードバックを入手しやすいのではないかと発言があった。

これに対し、IASB のフーガーホースト議長から、狭い範囲の修正は、IFRS の分量全体を考えれば、それほど多いとはいえないのではないかと発言があった。また、関係者の時間を非効率に使わせる可能性があるため、テーマごとにまとめて修正することも考えられるとの発言があった。

⑤ 特定の地域において問題となっている論点

ASAF メンバーから、世界的に大きな問題となっていない論点でも、特定の地域では大きな問題となっていることがあり、その取扱いをIASB は考慮すべきであるとの発言があった。

概念フレームワーク

概念フレームワークの議論は、プロジェクトの進め方と、測定に関する欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) のペーパーの2点について行われた。

(1) プロジェクトの進め方

① 再審議において焦点を当てるべき項目

ASBJ から、公開草案に寄せられたコメントを踏まえ、「概念フレームワークの役割」、「純

損益及びその他の包括利益 (OCI)」、「測定」及び「認識規準」の4つの項目を注意深く検討すべきであると発言した。

これに対し、各 ASAF メンバーから再審議において焦点を当てるべき項目が挙げられたが、そのほとんどは「純損益及びOCI」と「測定」に焦点を当てることを支持した。また、一部の ASAF メンバーは「認識規準」にも焦点を当てることを支持した。

② プロジェクトの最終化の方法

ASBJ から、仮に現在のスケジュールに従い概念フレームワークの改訂を確定させたとしても、「負債と資本の区分 (FICE)」、「会計単位」及び「認識の中止」に関する議論を継続すべきであると発言した。

これに対し、一部の ASAF メンバーから、再審議において焦点を当てるべき項目の検討が完了するまでは、概念フレームワークの改訂を確定すべきではないとの発言があった。また、他の ASAF メンバーから、特定の領域における検討が完了しないことをもって概念フレームワークの改訂を遅らせるべきではなく、時間がかかる領域については関連するリサーチ・プロジェクトにおいて扱うべきであるとの発言があった。

③ 測定及び財務業績の報告に関する戦略

ASBJ から、概念フレームワークの見直しを開始されたのは、2011 年のアジェンダ・コンサルテーションにおいて「純損益及びOCI」について堅牢な概念が存在しないとの指摘を受けたからであり、したがって、「純損益及びOCI」に関する堅牢な概念を見出すまでプロジェクトを最終化すべきではないと発言した。

これに対し、IASB のフーガーホースト議長から、英国の多くの企業で、将来、年金債務の支払ができなくなるといわれており、年金債務の変動を純損益の外で認識していることが問題になっているが、OCI の堅牢な定義を開発し、

そのような問題を解決できるようにしたとしても、関係者はその帰結を受け入れる準備ができておらず、結果としてそのような堅牢な定義を導入することは難しいのではないかとの発言があった。

④ 概念フレームワークの性質

ASBJ から、概念フレームワークを「生きた文書」(living document) とすることに同意しない、すなわち、概念フレームワークは重要な概念に関する安定的なプラットフォームを提供すべきであり、何度も改訂されるべきではないと発言した。

これに対し、一部の ASAF メンバーから、概念フレームワークを「生きた文書」とすることを支持する発言があった。また、他の ASAF メンバーからは、概念フレームワークは毎年改訂されるようなものではなく、ある程度の安定性が必要であるとの発言があった。

(2) 測定に関する EFRAG のペーパー

測定に関する EFRAG のペーパーでは、測定基礎の選択について、まず、財務業績の報告の観点から検討すべきであるものの、複数の測

定基礎を用いることで、財政状態計算書においてより目的適合性のある情報を入手できる場合には、次のいずれかの方法を検討すべきであるとしていた。

- ① 財政状態計算書のためにより目的適合性のある測定基礎を要求する。
- ② 財政状態計算書にとって最も目的適合的な測定基礎を財務業績の報告のためにも使用することを要求する。

ASBJ から、EFRAG のペーパーの提案、特に上記の測定基礎の選択に関する提案を概ね支持するものの、上記②について、財政状態の報告のために、財務業績の報告のための適切な測定基礎を妥協すべきではないと発言した。

これに対し、一部の ASAF メンバーから、稀であるとしても、財政状態の観点から資産・負債を評価するための測定基礎と、財務業績の観点から用いる測定基礎とが異なることが適切である可能性があるとの発言があった。また、他の ASAF メンバーからは、財務業績が定義されていない中、測定と財務業績を結び付けることを支持しないとの発言があった。